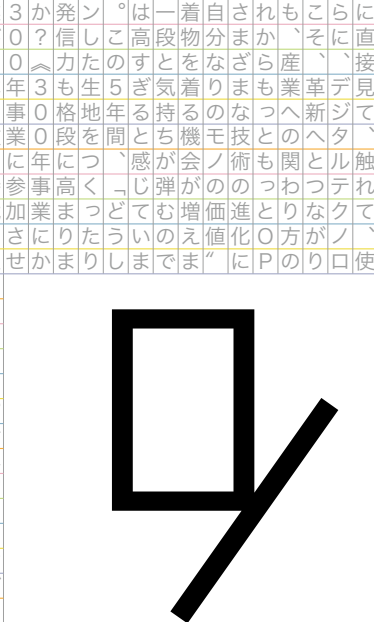


300年目の 丹後ちりめん

1720-2020

の場をつくるために、今、種々、大に成長した。今、丹後ちりめんは、多岐にわたる分野で活躍している。その中でも、最も目立つのは、ファッション分野である。丹後ちりめんは、伝統的な柄と、現代的なデザインを融合させた、新しいスタイルを生み出している。また、インテリア分野でも、丹後ちりめんは、和風な空間を演出するのに最適な素材として、広く利用されている。さらに、近年では、デジタル技術の進歩により、丹後ちりめんの魅力を最大限に引き出すための取り組みも行われている。これにより、丹後ちりめんは、ますますその人気を伸ばし、国内外で愛用されるようになった。未来は、丹後ちりめんのさらなる発展と、新しい可能性の発見に期待されている。



TANGO° OPEN

TANGO KYOTO JAPAN

へのさまざまな丹後ちりめんの活用が、本格的に展開されています。丹後ちりめんは、伝統的な技術と、最新のテクノロジーを融合させた、新しいスタイルを生み出している。また、インテリア分野でも、丹後ちりめんは、和風な空間を演出するのに最適な素材として、広く利用されている。さらに、近年では、デジタル技術の進歩により、丹後ちりめんの魅力を最大限に引き出すための取り組みも行われている。これにより、丹後ちりめんは、ますますその人気を伸ばし、国内外で愛用されるようになった。未来は、丹後ちりめんのさらなる発展と、新しい可能性の発見に期待されている。

丹後ちりめん これまでの300年 これからの300年

1720年に誕生した「丹後ちりめん」。
創業300年となる2020年までに
さまざまなことに挑戦し、
次の300年への新しい扉を開いた。

人をひらく。
道をひらく。
夢をひらく。
これは、丹後ちりめんの
従来の概念にとどまらない
上質な商品・技術の総称と
して、2018年に発表した
新ブランド「TANGO
OPEN」のコンセプトであ
る。その後、創業300年
を迎えるまでに、世界最大
級のインテリア・デザイン
見本市「メゾン・エ・オブ
ジュエ」への出展、森永邦彦
氏、岩谷俊和氏をはじめと
する世界的なデザイナーた
ちとのコラボレーションな
ど、「OPEN（ひらく）」
開かれている。

【丹後の絹織物・ちりめん産業の歩み】

- 711** 丹後にて絹織物の生産が開始
739 丹後国鳥取郷より「純（あしぎぬ）」が朝廷
に調貢
1720 峰山（現・京丹後市）の絹屋佐平治が西陣よ
り技術をもち帰り、はじめてちりめん織に成
功。2年後には加悦谷（現・与謝野町）の木
綿屋六右衛門が派遣した、手米屋小右衛門と
山本屋佐兵衛が西陣より技術をもち帰り、ち
りめん織に成功
1921 織物事業者が大同団結し「丹後縮緬同業組合」
（現・丹後織物工業組合）を設立
1927 丹後大震災が発生し、産地機業が大打撃を受
けるが、その後、京都府や各業界からの支援
により、驚異的に復興
1928 組合による「国練検査制度」全面实施。丹後
で精練し、検査を直接実施
1973 生糸価格の暴騰により、丹後機業有史以来の
好景気
1999 「丹後ちりめん」が団体商標として商標登録

【丹後ちりめん創業300年事業の歩み】

- 2017** 1月 実行委員会設立
フランスのオートクチュールメゾン「on
aura tout vu（オノラトゥヴュ）」とのコラ
ボドレスをパリコレで発表（フランス・パリ）
*1 通常、表に出ない生地産地・メー
カーのプレス資料（来場者に配布）掲
載など、丹後の複数社とのコラボを前
面に出して開催（～2019年）
4月 「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後
ちりめん回廊」が日本遺産認定
8月 総合プロデューサー就任（玉田
泉氏、佐藤俊博氏）
11月 「京都タカシマヤ」にて「丹後
が伝える『技』と『魅力』展」開催（京
都市）、産地単独の織物総合展「Tango
Fabric Marche」開催（東京）
2018 6月 専任事務局を丹後織物工業組合
内に設置、事務局体制強化
7月 丹後地域の上質なもののづくりの
証しである新ロゴ「TANGO OPEN」
発表（東京・3×3 Lab Future）*2 *3
（右から）総合プロデューサーの玉田
泉氏、（株）ユナイテッドアローズ名誉
会長の重松理氏、デザイナーの河原シ
ンスケ氏、GRAPH 代表取締役／ヘッ
ドデザイナーの北川一成氏によるパネ
ルディスカッション

9月 「MAISON&OBJET (メゾン・エ・オブジェ)」 出展 (フランス・パリ)

*4 年2回開催される世界最大級のインテリア・デザイン見本市で「TANGO OPEN」を活用し、テキスタイルやプロダクトを展示することで丹後織物の多様性と魅力を発信 (～2019年)

2019

3月 ユナイテッドアローズグループ向けの産地単独展示商談会開催 (東京)

*5 重松理名誉会長をはじめ、グループ内各部門デザイナーなどが来場。これをきっかけに2020年9月、「TANGO OPEN」とのダブルネーム商品を発売「Imagine Oneworld Kimono Project」に参画、アルゼンチン共和国をテーマにした着物など完成

6月 「Fashion Cantata from Kyoto」に男きもの5点出展 (京都市)

9月 森永邦彦氏 (ANREALAGE) がコラボ作品を「2019 LVMH Prize for young fashion designers (LVMH プライズ2019)」ファイナルで発表 (フランス・パリ) *6 丹後ちりめんの白生地
の端切れ2000ピースを接ぎ合せたセットアップを発表。2020年4月、丹後ちりめんを用いたパッチワークマスクを発売

2020

丹後ちりめん創業300年

8月 コラボアート作品展示+ POPUP 販売 (東京・NEWoMan 新宿)

9月 岩谷俊和氏とのコラボ商品「TANGO OPEN WHITE COLLECTION」発表・展示+ POPUP 販売 (東京・渋谷 PARCO Discover Japan Lab.)

10月 「SILK WEEKS IN TANGO | TANGO TEXTILE EXHIBITION」開催 (京丹後市)

11月 「JFW JAPAN CREATION 2021」出展 (東京・東京国際フォーラム)

2021

1～3月 イギリス出身の着物研究家シーラ・クリフ氏の着物コーデ披露+販売 (東京、京都市、与謝野町)

3月 丹後の織物と食を発信する「丹後フェス in 丸の内ハウス」開催 (東京・丸の内ハウス)



*1



*2



*3



*4



*5



*6

通年取り組み

国内外の学生とのコラボ作品の制作 (京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab との共催など)、地域内イベント支援、和装振興の取り組み (丹後きものクイーンの派遣など)、各種雑誌・テレビでの広報活動など

きもの幅 (小幅) の 白生地によるコラボドレス展示

2020年10月6日(火)～19日(月) 渋谷PARCO Discover Japan Lab.

TANGO OPEN
WHITE COLLECTION



絡み織りと紋意匠を複合させたジャガード織「丸撚り銀一紋紗大波更紗模様一」、無地の絡み織りでありながら紋意匠の技法を取り入れて更紗模様を表現したジャガード織「丸撚り銀一紗更紗柄一」を使用
生地提供＝安田織物(株)



ちりめんの最も特徴的な技術である「水撚り八丁撚糸」の緯糸を使用した、平織のちりめん「東雲ちりめん」を使用
生地提供＝田勇機業(株)



萩の花とカキツバタを刺繍した帯封のリボンが付いたストレーツシルエットのちりめんドレス



渋谷PARCOのDiscover

Japan Lab.にて、丹後の神髄

といえる白生地を使ったドレス3着を発表。ドレス制作で

一般的な広幅ではなく、あえて着物幅(小幅)を使用。着

物の需要が減少する中、着物

生地の新たな活用法を打ち出し、丹後ちりめんの将来につ

なげる取り組みとなった。

デザインを手掛けた岩谷俊

和氏は、「300年の歴史をもつ丹後の絹織物は、着物の

代表的な生地として和装文化を支えてきました。伝統と格

式がもたらす、素材の上質感。そこから培った唯一無二の魅

力と技法。そのハイクオリティな素材を用いたドレスが

『WHITE COLLECTION』です。これまで日本の伝統技術、

伝統文化をドレスにのせて世

界に向けて発信してきた

コラボレーション with Yumi Katsura Paris Couture Collection
担当デザイナー / 岩谷俊和氏

文化服装学院アパレルデザイン科を卒業後、アト・ワNZに入社し、2002年にDRESSCAMPをスタート。'12年より桂由美氏のクリエイティブチームに参加。'19年7月、'20年2月にYumi Katsura Paris Couture Collectionにおいて丹後生地を使用したドレスを発表



使用される「フレスコ生地」は、着物の絡み織りを駆使し立体的な表情を出すため、すべて手織りで制作。経糸には蛍光染、緯糸には生成りでシルクの白のコントラストを表現
生地提供＝クスカ（株）

随所にレースをあしらった
ビスチェ型のキモノドレス



ボリュームのある
襟と袖の
ユニークなミニドレス



丹後発のプロダクトや食の展示販売出店者(16社)／【織物関係】(株) 一色テキスタイル、(株) 大江、クスカ(株)、タカモトシルク(有)、PARANOMAD、フィルタンゴ、丸仙(株)、安田織物(株)、(株) 山藤、遊絲舎、(株) 吉村商店【加工食品】竹中罐詰(株)、長十水産、(株) 田園紳士【酒】白杉酒造(株)、谷口酒造(株)



展示販売の様子

Yumi Katsura Paris Couture Collection が、日本文化を世界へ、未来へ紡ぐ新たな美のはじまりをTANGOとともに提案します」と、本取り組みへの想いを語った。会場では、丹後発のプロダクトや食の展示販売も行った。

21年ぶりとなる 丹後地域での総合展示会開催

2020年10月21日(水)～11月1日(日)

SILK WEEKS IN TANGO
TANGO TEXTILE EXHIBITION



丹後織物工業組合の特設会場にて、第71回丹後織物求評会・展示商談会(10月21・22日)を開催。展示一般公開として、企画展示(丹後ちりめん創業300年事業成果発表、西陣織特別展示)、特別企画(300年記念織物コンテスト、男のきもの(着尺)コンテスト)のほか、「丹後織物産地の未来へ」と題したパネルディスカッションを行った。大京都芸術祭コラボレーション展示、丹後ちりめんポスターきもの展示、TANGO CREATION PLATFORM作品展示も同時開催。

出展者(41事業者)／足照工場、(株)一色テキスタイル、(株)糸利、今井織物(株)、(有)梅徳機業場、江原産業(株)、(株)大江、大場英樹、織元金重、川八工場、木本織物、クスカ(株)、コウジュササキ(株)、(有)三徳、篠春織物(株)、芝井(株)、柴田織物、絢和、白友織物、創作工房糸あそび、民谷蝶鈿(株)、田勇機業(株)、丹菱(株)、(有)西太織物、羽賀織物、前満織物、松田織物(有)、(有)松本機業、(有)丸栄織物工場、丸共(株)、丸仙(株)、万定織物(株)、(株)宮織、(株)安栄機業場、安嘉絹織(株)、安田織物(株)、遊絲舎、由里機業場、吉村機業(株)、(株)吉村商店、(株)ワタマサ
パネルディスカッションパネリスト(8名)／岩谷俊和、大塚博美、楠泰彦、軍地彩弓、佐藤俊博、玉田泉、田茂井勇人、広谷純弘

丹後ちりめんが NEWoMan 新宿をジャック

2020年8月14日(金)～9月30日(水)

インスタレーション、コラボアート作品展示、
POPUP 販売実施



NEWoManが掲げる「しなやかに、自分らしく。」のメッセージとともに、JR 新宿駅の東西自由通路に面したメインウィンドウを丹後ちりめんがジャック（右写真）。アートウォールでは、画家・田中紗樹氏が現地で得たインスピレーションを反映した作品約20点が展示され（左写真）、会期中にはアートペインティングのイベントも開催。POPUP では、シルクマスク、ネクタイ、バッグなどを展示販売した。

コラボレーション with 画家 / 田中紗樹氏

サンフランシスコ生まれ、東京在住。女子美術大学油画科卒業。
アトリエでの制作のほか、訪れた場所で制作し、その地に絵を
残す「Stay & Work」プロジェクトにより国内外で創作を行う

出展者 (10 社、1 プロジェクト) / (株) 一色テキスタイル、(株) 大江、クスカ (株)、タカモトシルク (有)、民谷螺鈿 (株)、
田勇機業 (株)、PARANOMAD、丸仙 (株)、安田織物 (株)、(株) 吉村商店、TANGO CREATION PLATFORM

丹後ちりめんが300年かけて紡いできたもの、
そして次の300年で紡いでいきたいもの。
その想いを胸に、次の一步を踏み出す。

開かれた産地

曰井織物(株) 主任 曰井勇人

十数年離れていた故郷に戻り約半年で迎えた丹後ちりめん創業300年の年は、丹後産地の懐の深さに触れる一年となりました。

和装生地産地・丹後に勝手なハードルの高さをイメージしていた私の中から見た丹後は、織元同士が面でつながり、外部からのアイデアや人材を柔軟に受け入れる「開かれた産地」として映りました。

300年事業を通して産地内外の方々を多大に頼りながら進めた生地開発では、既存の和服や洋服素材ではなく、鞆、ベビー用品、インテリア素材などの**新たな用途での可能性**を広げることとなりました。

素人同然の私がすんなりと輪に入り、機会が与えられる産地としての寛容さが、次の100年を担う「未来のつくり手」にとって容易に飛び込むことのできる伝統織物産地を整えているのだと感じています。

美しい丹後の織物

クスカ(株) 代表取締役 楠 泰彦

伝統とはなんだろう。そんな問いをあらためて考えさせら

未来のつくり手たちへ。

れる、丹後ちりめん創業300年の年になりました。丹後で糸を撚り、糸を染めて織物を織る。至ってシンプルだが、そこに込められた300年の先人の美意識こそが伝統なのだろうと、うつすらとそんな答えが紡がれていく中、新型コロナウイルスが蔓延し、社会との向き合い方や、都市部と地域の関係性、そして地場産業の在り方をあらためて考えさせられました。そんな中、丹後ちりめんを駆使した自社ブランドの旗艦店を東京・日比谷にオープンした。店名は「クスカ&ザタング」。先代が築いてきた織物技術の誇りと未来をつくるために店名にタングの文字を入れた。

伝統は革新の連続、美しい丹後の織物

技術を自分たちの子どもにも感じてもらうために、今日も丹後で一越ひと越、織物の伝統をつくっています。

紡いでいこーや

山象舎 代表 堤 木象

丹後でちりめんが織られはじめて300年になるという。絹屋佐平治なる者が西陣に産業スパイに行き、撚糸の技術を盗んで帰ったらしい。

いまやつたらどうなんやろう。

いや、そんなことは置いといて、

一人の命懸けの若者とこの地の風土のお陰で日本一の絹織物産地が形成された。

これこれ。

これですよ。

昭和48年をピークに生産量は減少の一途をたどっているが、この先人に倣い、石にかじりついても地場産業を継承・発展させ、この素晴らしい環境を守っていくところが創業300年を語るいま、丹後で暮らす私たちの使命。

「そう言うなら、おみやあがせーや」

「んー。ウラーもやるけど、みんなでかじりつこーや」
はじまりはじまり

300年事業にかけた想い

創作工房糸あそび代表 山本徹

丹後ちりめん創業300年を迎えるにあたり、私自身、当初はあまり深く考えてはいませんでした。

しかし、300年継続している丹後ちりめん（丹後産地）がこの先100年後にはどうなっている？ と考えるきっかけとなり、未来をつなぐためにいま、何ができるのか？ 何をしなければならぬか？ と考えるようになりました。

まず丹後産地（丹後ちりめん）は和装業界では知名度は高いが、その他業界（国内外問わず）においては知名度が低い。そして、産地として継続していく上での後継者不足が直面している課題だと思います。

そこで知名度を上げ、さまざまな業界の人を丹後に呼び寄せるため、そして将来の産地の担い手となる、地域の子どもたちに夢を与えて織物業への関心を深めるためにも、世界で

活躍する姿を見せること、機屋の仕事を知ってもらうことが必要ではないかと思い、パリで開催される「メゾン・エ・オブジェ」へ出展し、新たにインテリアへの取り組みを開始しました。

出展してあらためて感じたことは、丹後の生地に用いられる多種多様の

世界でも認められる素晴らしい技術

である！ ということでした。

今後も継続して国内外問わず発信し続けることが必要だと感じています。

自分たちの「産地・技術・生地」に誇りをもち、後継者育成と技術の継承を頑張っていきたいと思います。100年後へ続くように！

先人に学ぶ

民谷蝶畑（株）取締役 民谷共路

1300年以上前から絹織物を織り続けてきた丹後織物産地は、300年前に産地の危機に直面しましたが、「丹後ちりめん」を確立することで

丹後地方に活力

をもたらしました。
先人に倣い、ちりめん創業300年を契機に丹後織物産地が低迷する現状をいかにして脱していくかということを本

気で考え、取り組んでいきたいという想いをもちました。皆で話し合う中で、丹後が向かうべき方向として、丹後の歴史、自然、営みを背景にした世界に知られるクリエイティブ織物産地の創造という方向性が醸成されました。これを表す旗印として「TANGO OPEN」が掲げられ、着物はもちろん、ファッション、インテリア分野に裾野を広げ、国内外へのさまざまなアプローチが本格化しています。世界から多くの人々が織物を求めて丹後に来訪するような丹後織物エリアを、次代の方々と創造できればと思います。

これからの丹後

田勇機業(株) 代表取締役 田茂井勇人

2020年、創業300年を迎えた丹後は、「次代へ、新たな挑戦。」とスローガンを掲げ、コロナ禍の中、さまざまな事業に取り組みました。「TANGO TEXTILE EXHIBITION」を丹後で開催し、丹後から世界へ、世界から丹後へと発信すべくパネルディスカッションを行い、これからの丹後の方向性を話し合いました。丹後は、丹後ちりめんだけではなく、帯やネクタイなど、さまざまな織物が織られている産地です。その素晴らしい技術で織られた織物を今後ますます、国内外に向けて発信していきます。シルクロードの終着点であった日本。これからの

シルク ロードは丹後が

未来のつくり手たちへ。

始発点

となるよう、次代につなげるためにも夢もてる産地していきたいと取り組んでいます。そして、日本文化の象徴である着物の裾野を支える産業として、誇りをもち続けたいと思っています。次代へ、新たな挑戦。

100年先を望んで

安田織物(株) 代表取締役 安田章二

300年の節目は、本当に挑戦すべき年となりました。和装だけにとらわれない、丹後からグローバルへ、とはじまつた挑戦は、誰も想像しなかったコロナ禍によって、断念したり、手法を変えたりしたことも多くありました。ですが、それすらも変革を迫られた試練と受け止め、開かれた丹後を目指して取り組んできました。培われた技術と美しい生地を、多くの方に直接見て、触れて、使っていたく機会を多くつくり出すことができた実感しています。さらに、デジタルテクノロジーは、時間と距離を一気に縮めてくれました。

人や技術の掛け合わせこそ、革新へとつながり、新たな可能性を生み出してくれます。次代を担う地域の子どもたちにも、産業へのかかわり方のヒントにしても

らえたら、産地の未来はもつと開けていくでしょう。これからももつとOPENにしていきたいですね。

価値がわかりにくい時代に

(株)吉村商店 代表取締役社長 吉村隆介

さまざまな技術の進化により、世の中には安くて便利なモノがあふれています。裏を返せば、「自分なりのモノの

価値”をもつのが難しい時代ではないでしょうか。私は5年前に家業を継ぎ、着物を着る機会が増えました。多少の面倒臭さを遙かにしのぐカッコよさがあり、何より、一段と気持ち弾むのです。私にとつての「着物の価値」はドンと上がりました。一方で、価格は高過ぎると感じています。着物を着たい若者は多くいますが、なかなか手の届かない値段です。この5年間、「どうしたら次世代の人に着てもらえるか」を考えてきました。大学生がデザインした生地をつくつたり、産地価格で販売したり。幸いにも、さまざまな技術の進化のおかげで発信力も格段に高まりました。渋谷での仕事終わり、着物姿で一杯……なんて

ワクワク

しませんか？

300年事業にかけた想い

(有)佐藤商品開発 代表取締役 佐藤俊博

「海の京都」のプロジェクトから、丹後ちりめん300年事業に参加させていただきました。新型コロナウイルスで、ますます、**地方における産業が日本を救う**時代に入っています。世界的にも、グローバルの在り方、経済の仕組みが根本的に見直される時代です。

まさにローカルな時代となり、日本文化を語る上で「丹後ちりめん」は、日本を代表する伝統産業として注目されています。

「丹後ちりめん創業300年事業」は、次世代へのスタートに過ぎません。

丹後の人々の心が通う「TANGO OPEN」の新しい伝統をつくつていただきたいと思っています。

次の300年に向けて地域が一丸となり、日本の中心の産業として、世界に向かっていつてほしいと思います。

300年の歴史を未来につなげる

(株)オフィス泉 代表取締役 玉田 泉

丹後は日本の玄関口であり、和の源流といわれている。その歴史、環境、風土から生まれた伝統産業が「丹後ちりめん」を代表する丹後織物である。この素晴らしい地域産業を未来につなげていくためには、丹後織物の高度な技術の総称として「TANGO OPEN」というブランドをつくり、国内外に発信していく必要があると考えた。300年事業のテーマ「人をひらく」「道をひらく」「夢をひらく」には産地がチームとなり、新たな道を開拓して、夢をかなえるという想いが込められている。丹後にはさまざまな織物があり、その多様性こそが伝統に支えられた革新であり魅力である。それをしっかりと伝えていくことが新たなチャレンジにつながっていくと思い、クリエイターなど多くの方々にご協力をいただいた。丹後織物の新たな活躍の場をつくるために、

いまは種をまいたばかり。

この種が大きく成長し、今後の丹後織物の発展につながっていくことを心から願っている。

夢をひらく。 道をひらく。 人をひらく。

協力者／創業300年事業での主な招聘者（敬称略）

阿部潤一（kolor デザイナー）視察訪問／岩谷俊和（（株）IWY 代表取締役／ファッションデザイナー）Yumi Katsura Paris Couture Collectionでの生地使用、TANGO OPEN WHITE COLLECTION 制作、EXHIBITION パネルディスカッションパネリスト／大塚博美（ファッションコーディネーター）デザイナー招聘に協力、EXHIBITION パネルディスカッションパネリスト／帯川正之（（株）エイ・ネット社長室）視察訪問／河井真奈（スタイリスト／ギフトショップ futo プロデューサー）丹後ちりめんミニ bag「Tango Mini」プロデュース・販売／河原シンスケ（デザイナー）今回を機にアトリエを丹後に設置／岸良裕司（（株）ゴールドラット・コンサルティング CEO）織物事業者ワークショップ講師／北川一成（GRAPH 代表取締役／ヘッドデザイナー）新ロゴマーク「TANGO OPEN」の制作／軍地彩弓（ファッション・クリエイティブ・ディレクター）EXHIBITION パネルディスカッションパネリスト／佐々木敬子（スタイリスト／ファッションディレクター）コレクションでのコラボ検討中／佐藤俊博（（有）佐藤商品開発代表取締役）丹後ちりめん創業300年事業実行委員会総合プロデューサー／重松 理（（株）ユナイテッドアローズ名誉会長）（株）ユナイテッドアローズグループ向け産地単独商談会の開催、「丹後」を前面に出した商品の発売／鈴木恵千代（（株）乃村工藝社 統括エグゼクティブクリエイティブディレクター）織物事業者ワークショップ講師／立川裕大（（株）t.c.k.w 代表取締役／伝統技術ディレクター／プランナー）講演講師／田中紗樹（アーティスト）「NEWoMan 新宿」でのコラボアート作品の発表／玉田 泉（（株）オフィス泉代表取締役）丹後ちりめん創業300年事業実行委員会総合プロデューサー／津村耕佑（武蔵野美術大学空間演出デザイン学科教授）学生コラボディレクション・発表／徳光次郎（モノコトコネクション（株）代表取締役）ロゴマーク認定審査委員、織物事業者ワークショップ講師、丹後織物総合展レイアウトアドバイス（専門家紹介）／広谷純弘（東京理科大学教授／建築家）TANGO TEXTILE EXHIBITION 会場ディレクション、EXHIBITION パネルディスカッションパネリスト／丸山敬太（KEITA MARUYAMA デザイナー）コレクションに丹後の生地採用／MISIA（アーティスト）織物事業者との対談が雑誌に掲載／森永邦彦（（株）アンリアレイジ代表取締役／デザイナー）「LVMH プライズ2019」ファイナルでのコラボ商品の発表／Livia Stoianova, Yassen Samouilov (on aura tout vu デザイナー) 丹後ちりめんを用いたコレクションをパリコレで発表／Mathilde Roseanne Brégeon（デザイナー）TÉ.ORI 商品デザイン／Sheila Cliffe（十文字学園女子大学教授／きもの研究家）「シエラ・クリフと巡る丹後ちりめん工房プレミアムツアー」開催、着物コーデ披露など

発行

丹後ちりめん創業300年事業実行委員会
TANGO OPEN <https://tangoopen.jp>

制作

（株）ディスカバー・ジャパン